

電波新聞

2024年(令和6年)

6月11日

(火曜日)

発行所 電波新聞社

東京本社

〒141-8715

東京都品川区東五反田

1-11-15

☎03(3445)6111(大代表)

大阪本社

〒541-0045

大阪市中央区道修町3-2-6

(ウエムラビル4階)

☎06(6203)3361(大代表)

©電波新聞社

2024

プス「強靱化大賞」準グランプリ キューブ スマート防 災システム 自治体や企業へ採用訴求

位置情報を利用したシステムを提案している「Cube Earth」(キューブアース、大阪市北区)は、スマート防災システムで今春「強靱化(きょうじんか)大賞」の準

グランプリを獲得したの機に、各地の自治体や企業への採用を訴求していく。武田全史社長によると、同社の経営理念は「データ駆動社会実現カンパニー」。災害対応、避難計画、観光企画など地図表示などの独自技術で中期的には2028年8月期には



4月の強靱化大賞の受賞式で(左から古屋圭司衆院議員、武田社長、阿藤成彦会長)

17億6000万円の売上げ、純利益3億8000万円を目指す。政府の国土強靱化政策に沿って強靱化を推進しているレジリエンスジャパン推進協議会は、2014年から国土のレジリエンス(強靱化)社会構築に向けた取り組みを評価、表彰する「ジャパン・レジリエンス・アワード」(強靱化大賞)を

制定している。今年から従来の賞に加え、新たに内閣総理大臣賞と国土強靱化担当大臣賞が創設された。

今年4月下旬、都内で第10回の受賞式が行われ、キューブアースは準グランプリの「古屋圭司初代国土強靱化担当大臣賞」を受賞した。

受賞対象は自社開発の空間ID(アドレス)生成技術「Cube Earth」を使用したスマート防災システム「MAMORU」の開発。同システムは既に大阪府大東市で採用され、住基データ、福祉台帳、災害情報を組み合わせ、危機管理業務の省力化、避難行動要支援者の対応など防災DXの推進に貢献しているという。

キューブアースは地球表面を同じ正方形

(2D)、正六面体(3D)に分割して空間IDを付与する技術。同社長はキューブアースが今後、都市OSとも呼べる現実空間と仮想空間をつなぐデータ駆動型社会の重要な連携基盤になると語っている。

キューブアースは大東市以外に神戸市のスマート避難訓練、奈良平城宮跡公園の観光アプリに採用実績がある。武田社長は、防災以外に、スマートシティ・インフラ、観光アプリ、Maas、ドローンのナビゲーション、デジタルツインなど、広い範囲の応用を大阪から発信したいと

している。